



(公財) 山階鳥類研究所
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



中国黒龍江省から四国への絶滅危惧種ナベヅルの 渡りが確認されました

- ナベヅルは環境省レッドリスト（2018）の絶滅危惧第Ⅱ類（VU）に位置づけられていますが、2018年11月5日に高知県四万十市森沢において、さらに、11月12日に徳島県阿南市中林町において、11月16～23日には再度、四万十市森沢において、354の数字を刻印した赤の色足環を左脚の脛に装着した本種の成鳥1羽が観察、撮影されました。
- 色足環の情報から、この個体は、中国黒龍江省大慶市林甸県で2012年4月10日に性別不明の成鳥として足環を装着されて、放鳥された個体であることがわかりました。
- この個体は、すでに2012-13年の越冬期から鹿児島県出水市で観察され、その後も毎年、出水市に渡来していました。しかし、今季は11月25日になって初めて同地で観察され、12月3日には3羽家族で確認されました。
- 中国黒龍江省から渡来したナベヅルの同一個体が、高知県、徳島県、鹿児島県において連続して移動が確認されたのは初めてです。
- この記録ならびに近年の色足環の観察事例によって、ナベヅルの、九州と四国の複数の越冬地間に、個体の移動があつて関連していることが明確になりました。本種の保全上、越冬個体群の、鹿児島県出水市への過度の一極集の緩和が必要とされており、今後の保全のためにもこれらの知見は有意義なものと考えられます。

● 高知県での観察

観察日：2018年11月5日、11月16～23日
観察地：高知県四万十市森沢（北緯32°55′東経132°53′）
観察者：有田修大氏
状況：今季は個体数が多く、98羽が確認されており、そのうちの1羽。

● 徳島県での観察

観察日：2018年11月12日
観察者：西川清氏
観察地：徳島県阿南市中林町（北緯33°54′東経134°41′）
状況：12日朝、田んぼで採餌中のナベヅル11羽（成鳥9羽、



幼鳥 2 羽) を発見。成鳥の 1 羽に足環がついていた。

● 鹿児島県での観察

観察日：2018 年 11 月 25 日、12 月 3 日

観察者：西田智氏、溝口文男氏

観察地：鹿児島県出水市（北緯 32° 06′ 東経 130° 16′）

状況：12 月 3 日朝は 3 羽家族で確認した。

なお、この個体は 2012 年秋から鹿児島県出水市で確認されていて、以後毎年渡来していた（西田智氏）。

● 足環装着時の情報

放鳥日：2012 年 4 月 10 日

放鳥地：中華人民共和国 黒竜江省大慶市林甸県
Lindian county, Daqin city, Heilongjiang province,
China（北緯 47° 07′ 東経 124° 20′）

性・齢：性別不明・成鳥

放鳥者：郭玉民 Guo Yumin.

● 四国における近年のナベヅルの生息状況

四国では、高知県の四万十川下流域などを中心に従来から、少数の不定期な渡来が知られていたが、2015～16年の越冬期に、四国全体で合計約 300 羽が渡来し、100 羽以上が長期滞在した。2016～17年の越冬期には 50 羽程度、2017～18年の越冬期には 8 羽が越冬した（環境省調査）。

● ナベヅルの標識装着個体が鹿児島県出水市の越冬地と四国を行き来した過去の事例

【足環装着】（色足環番号 K23）

1989 年 1 月 27 日 鹿児島県出水市、性別不明・幼鳥

【観察】

2015 年 10 月 31 日～11 月 5 日 西予市宇和町

11 月 6～10 日 高知県四万十市

11 月 11～16 日 西予市宇和町

11 月 20 日 出水市

今回観察された個体（足環番号 354）は、11 月に四万十市、阿南市をへて 11 月中には出水市に移動した。上記の出水で足環をつけられた個体（色足環番号 K23）は、2015 年 10 月末～11 月に、西予市、四万十市、西予市と四国の西岸を移動したあと、11 月中に出水に移動した。この 2 例とも最終的な越冬地は出水市であるが、近年は上記のように、四国で越冬する個体数が増加しており、このような移動の実態が足環の証拠で明らかになったことは、ナベヅルの越冬地の分散（次ページ参照）について検討するために有意義な資料となると考えられる。



中国からの渡来が足環によって確認されたナベヅル。赤い色足環に 354 という番号が刻印されているのが見える（上・中：2018 年 11 月 5 日、高知県四万十市。有田修大氏撮影。下：2018 年 11 月 12 日、徳島県阿南市。西川清氏撮影）

ナベヅルとは

ナベヅル *Grus monacha* (ツル目ツル科) は全長約 100cm で、東シベリア南部とロシア極東南部のアムール川、ウスリー川、レナ川流域で繁殖し、中国南東部の長江下流域と朝鮮半島南部、および日本で越冬する。日本では水田地帯で越冬する。保護のための給餌が実施されている鹿児島県出水市の越冬地には全世界の個体数の約 8～9 割が越冬し、越冬地が過度に集中しており、伝染病が発生すれば大きな打撃を受けかねないことなどから、集中の解消の必要性がさげばれている。環境省レッドリスト (2018) の絶滅危惧第 II 類 (VU)。国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの危急種 (VU)。

この件についての問い合わせ先

※写真のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。

尾崎清明 山階鳥類研究所副所長

電話：04-7182-1101

e メール：ozaki@yamashina.or.jp

平岡考 山階鳥類研究所広報コミュニ

ケーションディレクター

電話：04-7182-1101

e メール：hiraoka@yamashina.or.jp